

〔特産・伝統野菜の活用および生産性向上〕

大蔵ダイコンの播種時期と生育

野呂孝史・森 研史

(江戸川分場)

【要 約】 8月播種では‘早太り大蔵’以外は地上部の過繁茂および根部の生育・形状の不良がみられる。9月播種では生育・形状は良好となり, ‘早つまり大蔵’が根部の大きさ, 重さなどから本作型に適する品種である。

【目 的】

秋播きダイコンの主流であった練馬群の大蔵ダイコンにおける播種期の早晚と生育および根部形態(尻づまりなど)の関連を品種も含め明らかにする。

【方 法】

‘早太り大蔵(タキイ), 早つまり大蔵(トーホク), 耐病大蔵(カネコ), 七福(サカタのタネ)’を供試し, 8月24日, 9月7日および21日に播種した。白黒マルチを使用し, 栽培ベットは80cm, 条間50cm・株間30cmの2条とした。播種後から白寒冷紗のトンネルまたはべた掛けを行った。施肥は窒素, リン酸, カリ各10aあたり15kg(成分量)を全量基肥とした。収穫調査は, 8月24日播種では11月4日(播種後72日), 9月7日播種は11月21日(播種後75日)および9月21日播種は12月6日(播種後76日)に行った。各品種20株2反復とした。

【成果の概要】

- 1) 地上部の生育(図1): 葉重は播種時期が遅くなるほど小さくなり, ‘早つまり大蔵’はその傾向が顕著であった。‘早太り大蔵’は播種時期にかかわらず, コンパクトな地上部であり, それに対し‘耐病大蔵’は旺盛な生育を示した。
- 2) 地下部の生育(図2, 3, 4): 9月播種の根重は8月播種より大きく, 良好であった。しかし‘早つまり大蔵’を除く3品種はやや重過ぎると判断された。また根長は約40cmを目標に収穫したが, ‘早太り大蔵, 七福’はやや長すぎる傾向であった。根径は‘早つまり大蔵’がやや細く, ‘耐病大蔵’は太くなった。
- 3) 変動係数からみた根形の揃い: ‘早太り大蔵, 早つまり大蔵’の各播種期および9月播種の‘七福’は根長の揃いが良好であったが, ‘耐病大蔵’は高い値を示した(図5)。根径の揃いも‘早太り大蔵’は良好であった。他3品種は播種期が遅くなるほど低値となったが, ‘耐病大蔵’はやや高い傾向であった(図6)。
- 4) 尻づまりの良否(図7): ‘早太り大蔵’は各播種期とも尻づまり株率が高いが, やや尻太の株もみられた。他3品種は, 8月播種では低率であったが, 播種期が遅くなるほど高くなつた。
- 5) 以上より, 8月播種は地上部が過繁茂に, 根部の生育・形状が不良になる傾向がみられた。その中で‘早太り大蔵’は良好であるが, 本試験より早めの収穫が適当と考えられる。9月播種では‘早つまり大蔵’が根部の大きさ, 重さなどから9月上旬だけでなく下旬播種にも適する品種であり, さらに本試験より遅めの収穫でも良好と考えられる。

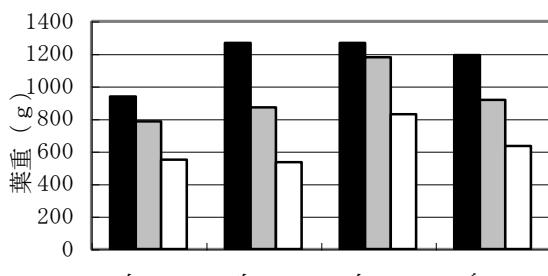


図1. 各播種時期と葉重

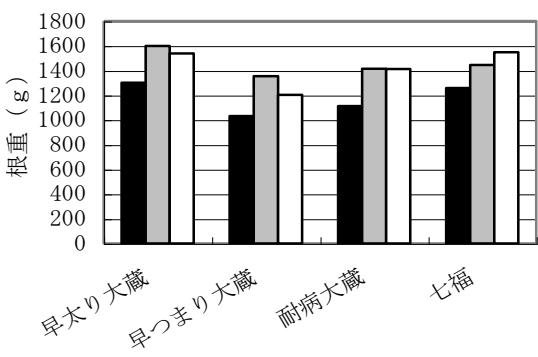


図2. 各播種時期と根重

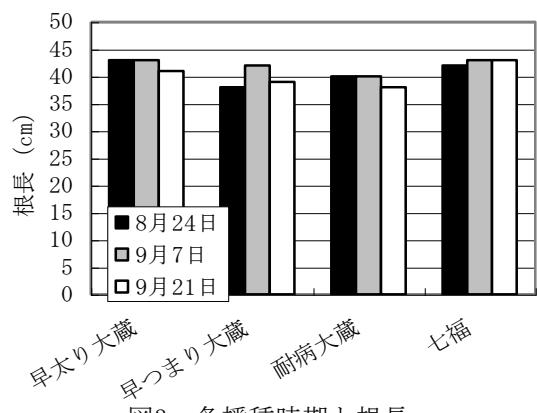


図3. 各播種時期と根長

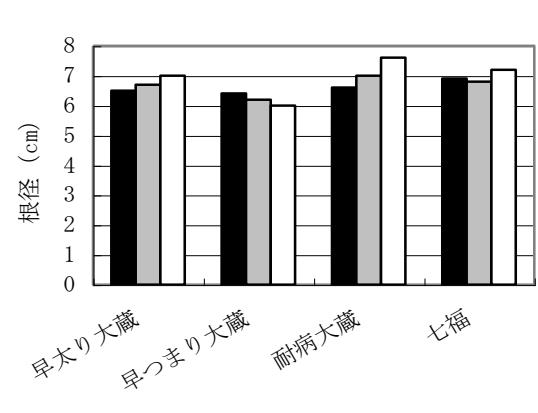


図4. 各播種時期と根径

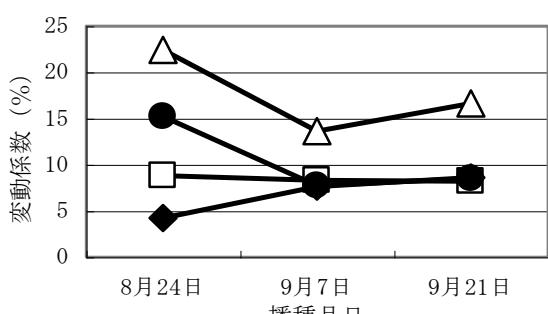


図5. 根長の変動係数

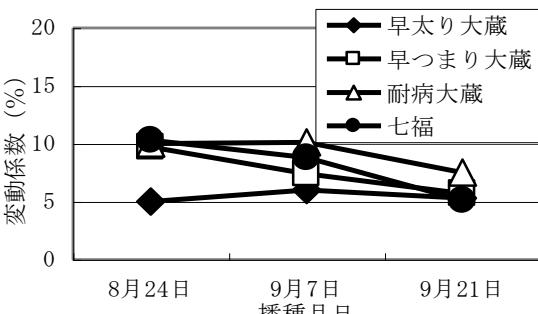


図6. 根径の変動係数

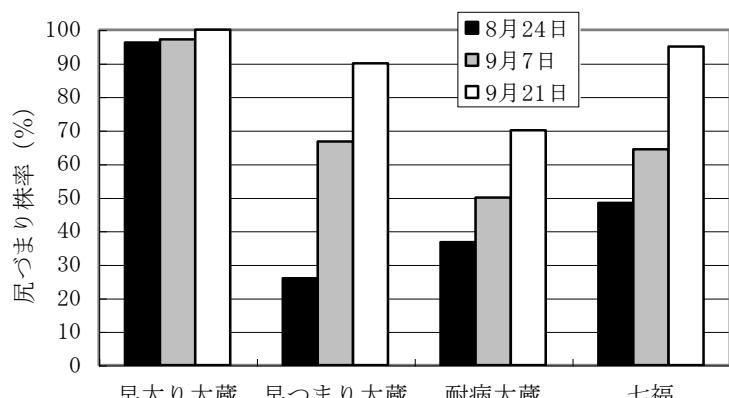


図7. 各播種時期と尻づまり株率